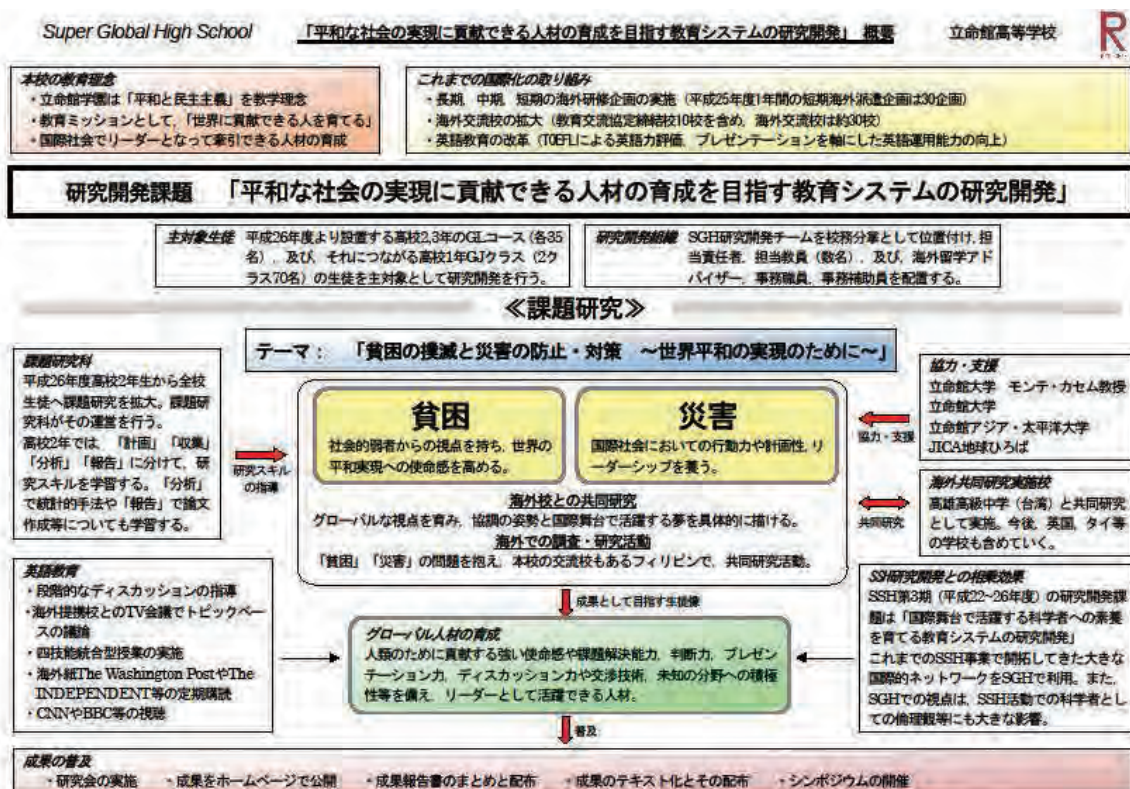


立命館高等学校

平和な社会の実現に貢献できる人材の育成を目指す 教育システムの研究開発

【構想の概要】

世界平和の実現を目指す使命感と諸問題に真摯に目を向け考察できる力をもって、リーダーシップを発揮し世界に貢献できる人材を輩出することを目指す。また、国際的な共同課題研究を推進していくための具体的手法を研究開発したい。そして、有効な教材や教育手段を明らかにし、それらを教育システムとして構築したい。



コア	高校1年	国語総合	世界史A	政治・経済 (現代社会解析)	数学Ⅰ	数学A	化学基礎	生物基礎	芸術Ⅰ	体育	保健	コミュニケーション英語Ⅰ	英語プレゼンテーション	社会情報	総合	H	R																			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
CE	高校2年	国語表現	古典B	日本史A (日本近代史)	数学Ⅱ		数学B	地学基礎	芸術Ⅱ	体育	保健	英語2A		英語2B	家庭基礎	文社特講Ⅰ	高大連携Ⅰ	課題研究	H	R																
	高校3年	現代文B	古典B	地歴選択 地理B 日本史B 世界史B	倫理		数学3	理科選択 化学 生物 地学		体育	英語3A (演習含む)		英語3B	文社特講Ⅱ	高大連携Ⅱ	課題研究	H	R																		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
SS	高校2年	国語表現	日本史A (日本近代史)	地理A	数学Ⅱ		数学B	物理基礎	化学	芸術Ⅱ	体育	保健	英語2A		サイエンスイングリッシュⅠ	家庭基礎	理系特講Ⅰ	課題研究	H	R																
	高校3年	現代文B	倫理	数学Ⅲ (演習含む)		物理		化学	体育	英語3A		サイエンスイングリッシュⅡ	理系特講Ⅱ	高大連携Ⅲ	課題研究	H	R																			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
GL	高校2年	国語表現	古典B	日本史A (日本近代史)	数学Ⅱ		数学B	地学基礎	芸術Ⅱ	体育	保健	英語2A		英語ディスカッションⅠ	グローバルイングリッシュⅠ	家庭基礎	現代社会システム	文化研究	課題研究	H	R															
	高校3年	現代文B	古典B	世界史B	倫理	数学3	グローバルサイエンス	体育	英語3A		英語ディスカッションⅡ	イングリッシュイマージョン中国語	日本史特講	国際関係ゼミ	課題研究	H	R																			

課題研究の指導、校内での成果共有の方法、教科間の連携について

2014年度より課題研究科（教科制）を立ち上げ、毎週の定例会議を設定して情報共有や研修に努めている。様々な教科教員が協働して取り組むことで全体への波及効果を生んでいる。また、課題研究活動とSGH各研修を結びつけて展開。さらに、長年のSSH課題研究指導の実績を活かしながら展開。生徒は2年・3年で各1単位を履修。3年の9月に校内生および外部教育関係者を招き中間発表会、1月に最終発表会を実施。グローバルイシューに関わる講演会や実地研修を経て、卒業時には成果論文を提出（GLコース生は英語論文）。研修については事前事後学習を重視し、学校説明会・全校集会・学年集会・クラス集会等で発表の機会を設け、自身の体験を言語化し伝える工夫をすることを通して、広く知見を共有している。

校務分掌の一つに「SGH推進機構」を設置し、週1回時間割の中に会議を設定。メンバーは教科の枠を越えて英語科、社会科、数学科、事務職員、副校長で計14名。また、各教科授業においてグローバルイシューを意識的に取り上げ、多角的に学習する等の工夫をすることでSGH活動を意識して実施している。

高大連携、他校への普及について

週に一度高校生が立命館大学に赴き、大学授業・AP科目を受講（単位認定）。国際関係学等について大学生とともに講義やゼミで学ぶ。また、大学から講師を招いた講演会やワークショップ等様々な取り組みを共同で展開している。立命館アジア太平洋大学からは留学中の国際学生を招き、ディスカッション等を展開。さらに、立命館大学生組織と連携してSDGsに関わるレクチャーやディスカッション等、高校生のキャリア形成に資する取り組みもおこなっている。

特色ある取り組み、SSHとの棲み分け・相乗効果について

SSH（2002～）、SGH（2014～）指定校。小中高大院一貫校。豊富な国際交流の機会（中高海外研修派遣人数877名、受入れ578名 2017年度実績）。RSGF（Rits Super Global Forum）は2014年度より実施し、2017年度は10か国14校が参加。

JSSF（Japan Super Science Fair）は2003年度より実施し、2017年度は25か国49校が参加。



RSGFでは、それまでの各実地研修と密接に結びついた課題研究活動の成果を披露するだけではなく、期間中海外生徒との長時間に渡るディスカッション等を経てアウフヘーベンされるプロセスを重視し展開している。また、フォーラムでの結論や提言・事後アクションの取り組みなどへと繋げることで、単なるイベント主義に陥ることのないように留意して実施している。

国際フォーラムの企画や運営をはじめとする知見、海外校とのネットワーク等についてはSSHの実績を活用。社会科学系のフォーラムを待望されていた他校や、潜在的な需要の掘り起こし等の契機にもなっている。SGHでのディスカッション・メソッドとその結論のありかたは、研究発表を主とするSSHの活動にも好影響を与えている。さらに、11月をInternational Novemberと銘打ち上記フォーラムやフェアを開催することで本校が国際交流の場となっている。

教育システムの制度設計としては、他に校内に「国際センター」を設置し、効果的な研修のあり方や生徒の動きを確認しながら事業の重複などの調整をはかることができている。

